

令和6年 能登半島地震体験レポート

浜建設(株) 浜 敦 [R6.10月寄稿]

1月1日 16:06 志賀町から七尾市へ向け車を走行中、少しハンドルを取られるような形で1回目(最大震度5弱)の揺れを体感、その後16:10 信号待ちをしていると、地鳴りのような轟音とともに車が跳ねるように激しく揺れた2回目(最大震度7)の揺れ、ハンドルに握まりながら周りを見ると電柱・電線、何もかも激しく揺れています。ゆっくり揺れが収まると同時に目の前の信号機は消え、ラジオからは想定5mの大津波警報、急ぎ山側の経路で七尾市へ向かいました。途中、高台の道路では避難の車で渋滞しており、何とか間を抜けながら災害時の待ち合わせ場所と決めていた高台の公園近くで家族と再会し、そのまま車内で朝まで過ごしました。

1月2日 津波注意報も解除された後、自宅と会社、現場の確認へ。津波の被害は無かったものの、会社建物は地盤の液状化で傾斜がついていました。また前日、車避難で過ごした人が多かったせいか、ガソリンスタンドには長い列、この時点で七尾市内の大部分が断水になっており、自宅周辺の自販機や臨時でオープンしていたドラッグストアから飲料水が消えていました。この日見た、何十台と隊列を成して能登半島へ向かう自衛隊、何十台もの消防、救急、重機を積んだ車両の列は、今でも鮮明に覚えています。

1月3日 新しい年はどうしようかと落ち着いて考えている時間もなく、電話対応と現場確認、お客様からの相談、年明けから工事予定となっていたリフォーム工事(地震によりジャッキアップ工事も追加)、余震もあり揺れる屋根の上でブルーシートを掛けていた応急修理、応急修理の申請対応に日々追われていました。



地震間もないころの屋根応急作業の際に撮った写真

2月半ば 応急修理対応が若干落ち着いたところで、具体的なお客様相談も増え、市内の断水が順次解消されて行くにつれ、宅内・敷地内の漏水も発現し、設備の修繕作業も増えてきました。



室内壁面に大きくひびが入った写真

2月末 自宅の断水が解消され、毎日の他市への銭湯とコインランドリー通いからようやく解放されました。2か月間、ほぼ毎日給水支援を受け、近所で井戸水を貰いながら出来るだけ水を使用しない生活を送っておりました。断水時には、トイレの

問題等もあったため、お客様宅での作業が予定通り進められない事もありました。

3月半ば 応急修理対応は減ってきましたが、引き続き具体的なお客様相談と見積業務に追われていました。ようやく会社の断水も解消し、水のストレスが無くなりました。

4月半ば 被災した住宅の本格的修繕を順次開始、各業者さんも忙しく予定通り工事が進まない状況は今現在も変わっていない。七尾市内の断水がほぼ解消するも、宅内の漏水修繕が追い付かず。

5月半ば みなし仮設住宅の修繕作業を順次開始、住宅建物の沈下修正、解体・建替え、建物修繕の相談も増え続け、今現在に至っています。

9月に入り解体工事を目にする機会が増え、ほんの少しだけ復旧が進んでいるような気がします。

最後に、七尾市では住宅の全壊・半壊は約 5,100 棟、一部損壊は約 10,000 棟となっており、地震直後から応急危険度判定や被災度区分判定業務において、各地より応援して下さった皆様には心より感謝申し上げますとともに、こちらへ判定業務の応援要請があった際は是非参加させていただきます。



市内のどこかの解体現場写真



いまだに家屋潰れたままの写真



いまだに家屋潰れたままの写真2

石川県建築士事務所協会会報

『Harmony』2024年能登半島レポートNo.1 令和6年11月発行
発行者／(一社)石川県建築士事務所協会 編集者／広報委員会
TEL(076)244-5152 FAX(076)244-8472

〒921-8036 金沢市弥生2丁目1番23号(石川県建設総合センター5階)
E-mail:ishikyokai@ishi-kjk.or.jp URL:http://www.ishi-kjk.com